

氏 名 き 村 ま ち こ

所 属 ・ 職 名 保健体育講座（体育学）・教授

研究室電話番号 0742-27-9230
（ダイヤルイン・FAX 兼用）

電子メールアドレス machiko@nara-edu.ac.jp

最終学歴及び学位 筑波大学大学院体育科学研究科博士課程修了（1981）
筑波大学教育学博士（1981）

所 属 学 会 等 日本体育学会，日本スポーツ教育学会，日本スポーツ運動学会

専 門 分 野 体育学



研究と教育について

小・中・高の体育の授業でマット運動や走り幅跳び，バスケットボールやバレーボール等々を経験した人は多いと思いますが，そういった運動はずっと昔から体育の教材だったのでしょうか。いつ頃から体育の教材に取り入れられたのでしょうか。またどの国も同じような体育教材を使っているのでしょうか。そのような疑問から，私は体育教材の位置づけや変遷を特にドイツと比較して研究しています。その中でわかってきたことは，その時代や社会が求める人間像によって体育の教材も随分変わるということです。社会が富国強兵を掲げ近代国家建設を目指しているときの体育，経済の高度成長を遂げようとしているときの体育，国家を挙げてオリンピックのメダル獲得数を増やそうとしているときの体育，成熟社会に入り個人個人の生活を尊重しようとしているときの体育等々，それぞれは全く異なる様相を呈しています。まさに体育の中にその時代や社会の思潮が凝縮されているのです。このようなことを調べつつ，現在の私たちが置かれている歴史的な位置を確認し，これからの体育のあるべき姿を探求するのが私の研究が目指すところです。

最近特に興味深いのは，ドイツの体育において近代スポーツの位置づけが揺らいでいるということです。それはなぜかという近代スポーツはドーピングという負の遺産を生み出してしまったからです。20 世紀中頃までは善玉だったはずの近代スポーツが 21 世紀初頭には悪玉扱いされてきているのです。21 世紀のキーワードは環境・共生だとよく言われていますが体育も例外ではありません。21 世紀にはどのようなスポーツ文化が創出され体育の教材になっていくのでしょうか。そのようなことを皆さんとともに考えてみたいと思います。

主 な 研 究 業 績

- ・「自然体育の成立と展開」不昧堂出版 総頁数 279 頁 1989 年 単著
- ・「旧西ドイツにおける『体育』から『スポーツ教育』への変遷過程に関する一考察」スポーツ教育学研究第 15 巻(第 2 号) 69-80 頁 1995 年 単著（日本スポーツ教育学会賞受賞）
- ・"The Genealogy of Power: Historical and Philosophical Considerations about Doping"
International Journal of Sport and Health Science Vol.1 No.2 222-228 2003 単著
- ・「いまアマチュアリズムをどう見るか」スポーツ文化論シリーズ 14 創文企画 45-68 頁 2005 年 単著
- ・「学校体育の存在意義に関する原理的考察」体育学研究 第 50 巻(第 4 号) 403-413 頁 2005 年 単著

主な授業担当科目

学 部：体育原理，ダンス 大学院：体育原論

学 会 活 動 日本学術会議 第 16・17・18 期 体育学・スポーツ科学研究連絡員 1994-2003
日本体育学会「体育学研究」編集委員 1999-2003
日本教育学会理事 1994-2003
日本スポーツ運動学会理事 1992-

社 会 的 活 動 ドイツ専門誌"Leistungssport"の協力編集委員
奈良県及び奈良市スポーツ振興審議会委員

講 演 の テ ー マ 「未来のアスリートのために」NHK 教育テレビ金曜フォーラム出演（ゲストスピーカー）2003 年